



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問合せ先 財務戦略統括部 IR推進部
 TEL 03-6895-0178

2022年4月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	4月度	3-4月累計	4月度	3-4月累計
百貨店事業	16.6	10.3	22.4 (23.6)	13.2 (14.3)
SC事業	▲5.2	▲10.4	15.9	6.3
デベロッパー事業	32.4	▲10.5	32.4	▲10.5
決済・金融事業	29.6	32.4	29.6	32.4
その他	▲18.8	▲19.4	▲18.3	▲19.0
連結合計	8.6	▲0.9	19.7	9.0

- ※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業(パルコSC)」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。百貨店事業の()内は、松坂屋豊田店の値を控除した増減率を示しております。
 5. 当社は、2021年6月30日付で(株)ヌーヴ・エイの全株式を譲渡しました。
 6. (株)大丸松坂屋百貨店は、2021年9月1日付で(株)大丸松坂屋セールスアソシエイツを吸収合併しました。
 7. 当社は、2022年2月28日付で(株)ディンプルの株式の90%を譲渡し、連結の範囲から除外しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 4月度の売上高は、入店客数の増加や、ラグジュアリーブランド、宝飾品の好調に加え、前年の感染症影響(行動制限、関東・関西店舗の臨時休業)の反動などにより、大丸松坂屋百貨店合計(既存店)では対前年24.6%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計(既存店)では同23.6%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高は対前年153.3%増(客数同85.3%増、客単価同36.7%増)であった。
- 大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年23.7%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の5月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、前年の臨時休業の反動や来店客数の回復もあり15日までの累計で対前年115%増(対2019年▲8%減)、国内売上高は同114%増(対2019年3%増)で推移している。

2) SC事業

- 2021年6月30日付で(株)ヌーヴ・エイの全株式を譲渡したことを主因に、SC事業の4月度の売上収益は対前年▲5.2%減となった。
- パルコ店舗テナント取扱高は、まん延防止等重点措置が3月下旬に解除されたことや新型コロナウイルス感染者数の減少傾向を受け消費者の行動自粛ムードが改善されたこと、また、前年の緊急事態宣言の影響の反動もあり、全店計で前年比は大幅に伸長した。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、パルコスペースシステムズが増収となったほか、J.フロント建装も百貨店の改装工事を主因に増収となり、トータルで増収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、年会費や加盟店手数料の増加等により、増収となった。
- その他は、卸売業である大丸興業の海外子会社で減収となったほか、(株)ディンプルを連結範囲から除外した影響により、トータルで減収となった。

【お問合せ先】 J.フロント リテイリング株式会社
 ・ IR推進部 TEL 03-6895-0178
 ・ グループ広報推進部 TEL 03-6895-0172

2022年4月度 百貨店事業 営業報告(日本基準)

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	4月度		3-4月累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	40.0	55.4	23.5	26.0
大丸 梅田店	44.2	46.4	21.1	20.4
大丸 東京店	32.0	47.3	25.3	33.6
大丸 京都店	18.0	26.4	8.5	11.9
大丸 神戸店	44.4	34.8	24.8	16.5
大丸 須磨店	▲5.6	7.9	▲7.4	7.0
大丸 芦屋店	3.9	11.7	2.6	8.3
大丸 札幌店	21.8	20.4	12.4	13.4
大丸 下関店	▲3.1	▲1.4	▲8.2	▲6.4
松坂屋 名古屋店	7.4	8.7	6.9	4.2
松坂屋 上野店	6.8	27.1	6.5	19.4
松坂屋 静岡店	8.1	23.4	3.4	13.3
松坂屋 高槻店	16.7	47.6	10.2	34.9
店 計	21.5	27.8	12.9	15.6
既存店計	23.0	30.2	14.3	17.4
法人・本社等	53.3	-	31.0	-
大丸松坂屋百貨店合計	23.2	27.8	13.9	15.6
うち商品売上高	23.4	-	13.8	-
うち不動産賃貸収入	17.8	-	15.8	-
既存店計	24.6	30.2	15.1	17.4
博多大丸	15.5	17.1	8.6	13.6
高知大丸	8.5	36.8	▲2.0	10.9
百貨店事業合計	22.4	27.3	13.2	15.4
既存店計	23.6	29.4	14.3	17.1

※注) 1. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。
 2. 既存店計には、松坂屋豊田店の前年実績値を含みません。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	全店計	
	4月度	3-4月累計
紳士服・洋品	20.1	12.6
婦人服・洋品	38.6	24.8
子供服・洋品	9.8	0.4
その他の衣料品	18.3	13.8
衣料品計	34.4	22.0
身 回 品	31.1	12.7
化粧品	4.7	4.7
美術・宝飾・貴金属	16.9	11.4
その他雑貨	9.5	0.8
雑 貨 計	11.1	7.7
家具	13.3	0.3
家電	3.9	0.4
その他の家庭用品	▲7.2	▲10.9
家庭用品計	▲2.1	▲8.1
生 鮮	▲6.3	▲8.3
菓 子	24.9	12.7
惣 菜	12.0	7.9
その他食料品	3.5	0.4
食料品計	10.9	5.6
食堂・喫茶	57.3	27.0
サービス	44.2	22.4
そ の 他	30.9	13.4
合 計	23.4	13.8

- ・ 婦人服・洋品はラグジュアリーブランドが好調を持続したことに加え、ジャケット、ブラウスなど通勤・お出かけスタイルのアイテムが引き続き好調。紳士服・洋品では、スーツが好調を持続したほか、ゴールデンウィークを控えキャリーケースなど旅行用品の売上も伸長した。雑貨は、催事における宝飾品の好調が牽引した。食料品は、菓子類の好調を主因に対前年二桁増。入店客数の増加により、食堂・喫茶も大幅な増加となった。

2022年4月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	4月度	3-4月累計
札幌PARCO	6.4	▲0.5
仙台PARCO	41.3	21.1
新所沢PARCO	▲7.0	▲6.8
浦和PARCO	6.2	3.1
池袋PARCO	57.3	27.8
PARCO_ya上野	44.4	22.8
ひばりが丘PARCO	16.0	11.3
吉祥寺PARCO	26.3	12.4
渋谷PARCO	58.0	47.0
錦糸町PARCO	39.1	19.9
調布PARCO	27.1	13.7
津田沼PARCO	▲8.2	▲10.0
松本PARCO	▲9.5	▲8.2
静岡PARCO	6.6	▲0.3
名古屋PARCO	18.9	6.1
心齋橋PARCO	32.2	13.9
広島PARCO	5.5	▲1.3
福岡PARCO	6.1	3.2
全店計	20.5	10.3

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	4月度	3-4月累計
衣料品	19.4	10.5
身回品	19.9	9.1
雑貨	21.9	10.2
食品	4.6	3.1
飲食	36.4	20.9
その他	23.9	9.9
合計	20.5	10.3

3. 営業概況

- ・ 4月は、まん延防止等重点措置が3月下旬に解除されたことや新型コロナウイルス感染者数の減少傾向を受け消費者の行動自粛ムードが改善されたこと、また、前年の緊急事態宣言の影響の反動もあり、全店計で前年比は大幅に伸長した。
- ・ アイテム別では、4月上旬の気温上昇などにより春物衣料が高稼働し、衣料品が好調。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う制限が緩和されたことが追い風となって売上が回復し好調に推移した飲食をはじめ、全てのアイテムで前年を上回った。